

本市が誇る伝統産業は

問 価値を広く伝えるための考えは。

答 築城400年は、伝統産業の価値や魅力を発信する機会とも

環境行政は

問 公用車への電気自動車の採用は。

答 現在、本市では電気自動車を1台、ハイブリッド車を14台導入している。

市民連合



コロナ禍での学校教育は

問 子どもたちへの心のケアは。

答 2021年度、スクールカウンセラーが児童生徒から受けた最も多い相談は、心身の健康に関するものである。授業や学校行事、

捉えており、インターネットで保命酒や畳表、福山琴の制作を学ぶ体験プログラムを提供している。

今後、海外バイヤーを対象に、福山城を会場としたデニムの商談会を実施し、日本一のデニム産地のさらなる知名度向上に取り組む。

現時点では、費用対効果や走行可能距離などの課題があるが、令和4年度に福山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を見直す中で、令和12年度までに全ての公用車を電動車にするという政府の実行計画を踏まえ、検討していく。

部活動などが制限され、さまざまな不安やストレスを抱える子どもたちの心のケアは重要な課題であると認識している。特に留意して取り組む主な内容として、「アンケート調査や個人面談などを実施し悩みを抱える児童生徒の早期発見、早期対応を組織的に行うこと」「きめ細かな健康観察や健康相談の実施等により児童生徒の状況を的確に把握すること」「教育相談窓口を周知すること」を学校へ指示している。引き続き、あらゆる機会を通して子どもたちの変化を捉え不安や悩みの解消に努める。

福山ネウボラは

問 ①相談窓口「あのね」の成果は。

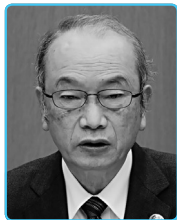
②今後の方向性は。

答 2017年の開設以降、8万件を超える相談を受けた。この地域で子育てをしたいと思う親の割合は、ネウボラ創設前の2016年度89.5%から、2020年度94.7%に増加した。子育て家庭に気軽に相談場所と認知され、不安軽減につながっていると考える。コロナ禍で、家庭で過ごす時

間が増え、親子のふれあいが増えて良いとの声の一方、子どもとの時間の過ごし方が分らない等、育児に不安を感じる家庭への対応が求められる、あのね育ナビで子ども遊びの動画配信等を行っている。

②ミニえほんの国など、親子のふれあいの場を充実する。また、医療的ケア児の保育施設への受け入れ、「ことばの相談室」と「あのね」の一体的な相談体制の構築など、発達支援を強化する。全ての子どもたちの健やかな成長を支援し、希望の子育てが実現できるよう、福山ネウボラを一層強化する。

日本共産党



国民健康保険税は

問 ①年金の引き下げや物価高で国保加入者の生活はさらに厳しいが、本市は国保税の引き上げを行う。決算剰余金等を活用し、国保税を引き下げるべき。

②本市の一部負担金の減免対象

は、一時的な所得減の場合のみである。低所得状態が続いて治療費を捻出できず命を落とす事態もあった。恒常的な低所得状況の加入者も減免対象にすべき。

答 ①保険税額は国民健康保険の県単位化に伴い、県が示した単価を予算額としている。2022年度の保険税率は2021年の所得状況を踏まえ、福山市国民健康保険運営協議会に諮り、算定する。②各種保険制度で統一された負担割合となっており、減免は国の運用基準に基づいて実施している。